

好きだから、やってきた。

平成27年度から活動してくれていた第1期地域おこし協力隊の2人が、平成30年3月31日をもって任期を終え「卒隊」しました。委嘱期間満了までの毎日、地域で精いっぱい活動を行いました。彼らの3年間の活動を振り返り、皆さんにお知らせします。

市民協働課 ☎(25) 8526



集落

「太田効果やな！」集落の中で移住の当初にブームになった言葉である。

私が入った野口区は、区内行事も活発。地域活動として炭を焼き、外部人材の受け入れも積極的なのだが、いわゆる限界集落とよばれている。そんな所に他所から来た若い娘が一人入って何が変わるのか。私自身も疑問だった。しかし、私が『集落の一員となること』で大きな変化があった。簡単に言えば、個人が集落を、集落が個人を信頼できるかという話だ。

集落における一人の存在の大きさというのは計り知れない。集落の人が変わらずに居てくれることがどれほど心強いのか。私は集落の一員として、行事やサロンに参加し、炭も焼いた。「太田効果」初めは物珍しさだったのだろうが、今となっては安心と定着を指す言葉となっている。

地域づくり

地域ってどこだろう？市や町村、それとも所属するコミュニティ？地域づくりに携わっている人ならば一度は考えること。どんな範囲であっても「人の暮らし」を意識することは共通しているのではないかな。

時にはアンケート調査で、時にはボランティアとして、地図上では見えない人の暮らしに触れてきた。お隣に住んでいたとしても、年齢や活動範囲、はたまた宗教でも感じ方はさまざま。一方向から見ただけでは地域づくりはできないと学んだ3年間となった。

そして、「住民が自分たちの暮らしを考える」ことも大事だと思うようになった。伝統や習慣、何を守って何を変えていくのか。変わることで影響を受けるのは住民なのだから。試行錯誤を半永久的に続けるのが地域づくり。辛いことではなく、楽しいこととして受け入れられる地域づくりを今後していきたいものだ。



好きだからやってきた

私は何かの大きな事業を始動させることはできない。ただ、目に見える・手の届く範囲の人のために考えることはできる。サロンや区内の広報も好きだからやってきた。

誰が何をやる、は適材適所。上から大きく見渡すのはできる人に任せよう。その代わりに私は、下からじんわりと。皆さんと一緒に。これからもよろしくお願いします。

プロジェクト

キャリア教育PJのコーディネート

市が進める地域連携による高校生キャリアデザイン事業のコーディネーターとして授業開発や普及を担当者と二人三脚で進めてきました。

高島市から、激変する社会を強くしなやかに生き抜く人材を世界に送り出す。しかも高島にしかない魅力的なキャリア教育で。願わくば、世界で力をつけた卒業生が、高島市にブーメランのように帰ってくる。魅力的な教育を求め全国から若い世代が集まってくる。この事業にはそんな夢を描いて関わってきました。

先進地の島根では地域おこしの主流である教育振興。今では少しずつこの理念に共感する人が増えてきましたが、高島の教育環境は楽観視できません。小中学校から高校を含む魅力化が必要です。学校の外に学びの場を創り出すことにも挑戦したい。これからも、地域・学校・行政の真ん中でこの事業を育てていきたいと思っています。



集落活動

移住から2年半お世話になっている竜地区では、自治会理事に始まり、福祉推進委員、大溝祭の曳山保存会に神輿昇きなどを経験させていただきました。昨年からは大溝水辺景観まちづくり協議会の委員にも参画してもらい、協力するより勉強させてもらうことが多かったように思います。

特に自分の住む集落を振り返ると、竜地区はこの3年間、常に変革に取り組んできました。高齢化率の高い集落でも10年20年先を見て試行錯誤をする。対話する場を設け、お互い様の精神をもって暗くならず、楽しく前に進む。私が何かをした訳ではないです。太田隊員の言葉を借りるなら「変わる努力と変わらない勇気」の実践が竜地区の人々にはあります。そんな姿が、私に（意地でも）定住するという決断を呼び起こしました。

好きだからやってきた

今の日本社会を車だと思ってみてください。いろいろなところにガタがきています。今まで通り走れないことが増えてきました。車なら修理工場に預けて修理できる。ところがこの車は走ったままで部品を交換したり、燃料を入れるなどアクロバティックな作業が必要です。社会は暮らしがあるから止まらない。この作業は危険だし難しい。でも誰かがやらないといけな。そんなときに、ニコニコして俺やりますよと言えるのは親の教育の賜物で、ワクワクしてしまう自分がある。結局、好きなんです。お金や安定よりこういうことが。



原 周右 隊員
高島市勝野（竜）で活動
平成27年8月～平成30年3月

太田 彩 隊員
マキノ町野口で活動
平成27年6月～平成30年3月

隊員情報！

担当者インタビュー

地域おこし協力隊の担当として2年間、一緒にいろいろなことを学びました。勉強熱心で地域の人々をこよなく愛する彼らの、熱い思いについていくことに、「必死」というところが本音だったかもしれせん。関わりすぎず、必要などときには相談してもらえという距離を保っていたつもりですが、どれだけ信頼できる担当者だったかは、彼らに直接聞いてみてください。2人が今後も市内に定住し、活躍してくれることが担当者としては一番の喜びです。また現在、第2期地域おこし協力隊の活動開始に向けて、準備を行っています。新しい協力隊についても、しっかりフォローしていきたいと思っています。

(市民協働課 加藤圭子)

